池間湿原散策コース(陸水)

距離:約5.3km 所要時間:車で約75分

池間島の中心が入江だった時代は、海とつながっていたので、ブダイやタコ、ナマコやカニなどが生息し、オヒルギ・メヒルギ・シマシラキなどのマングローブ植物も生えていた。

ケミズキンバイ

沖縄県RDB:絶滅危惧Ⅱ類
環境省RD:絶滅危惧Ⅱ類

多年生草本。国内では沖縄県でのみ見られる希少種。茎は水上に浮かび、呼吸根と根を水中にのばす。

ヒメガマ

抽水性の多年生草本。葉で筵や蓑を作った。子どもたちはアイスケーキギーと呼んでいた。

フトイ

抽水性の多年生草本。世界各地の湿地で見られる。茎はストロー状になっており、葉は退化している。

- 空気をためて呼吸
- 浮きがわり
- 体を支える

陸水の環境

淡水で生育する植物は、その総称として湿性植物や水生植物と呼ばれ、宮古では池間湿原や崎田川、ため池や湧水地周辺などの限られた場所でしか観察できません。県内最大の湿原とされる池間湿原は、もともとは海とつながっていましたが、昭和の初め頃に農地にするために干拓されました。

その後淡水化が進み、今のような環境になりました。湿原には様々な動植物が生息・生育しており、環境省の「重要湿地500」に選定されています。また、渡り鳥の貴重な休息地および繁殖地となっているため、2011(平成23)年に国指定池間鳥獣保護区に指定されています。

イヌクログワイ

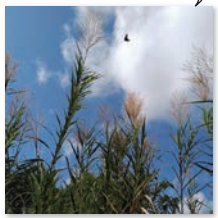
抽水性の多年生草本。池間湿原で比較的かんたんに見ることができる。

陸水の環境で見られる植物

キダチキンバイ

多年生草本。日当たりのよい湿地や沼などに生える。全体的に毛が生え、黄色い花がよく目立つ。

ブーギギスキ



セイコノヨシ
（セイタカヨシ）

多年生草本。穂がサトウキビに似ている。葉が上向きで垂れ下がらない。

クスキ

イボタクサギ

常緑半つる性低木。海岸や砂浜にも生える。葉をもむと臭い。茅葺のときに縄がわりにした。

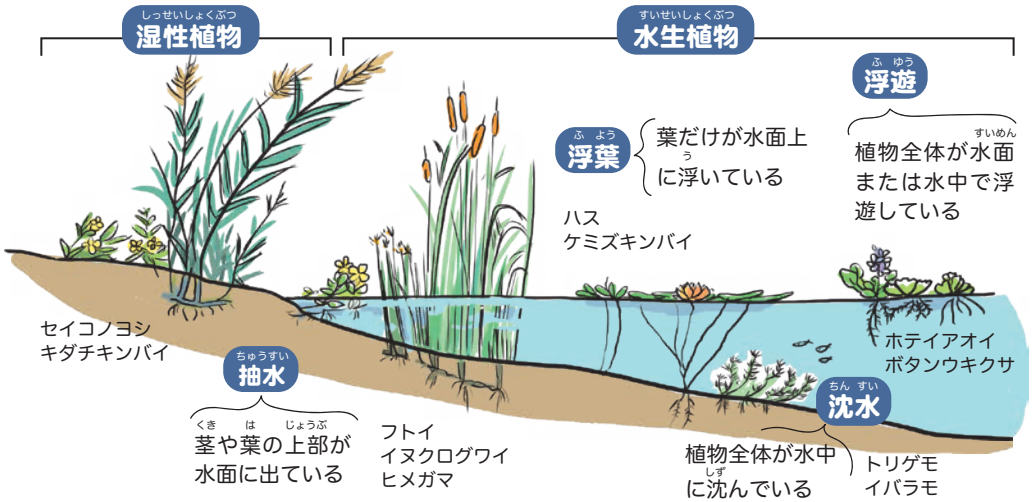
マズムヌギー

サガリバナ

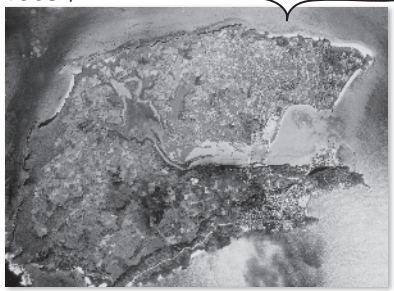
常緑亜高木。花は夜に咲き、甘い香りを放つ。宮古島添道に唯一の自生群落地がある。

湿度の高い水辺や湿地に見られる植物。基本的に根を含む植物全体が陸上にある

体の一部またはその全体が水に浸かるような場所に見られる植物。一般には水草と呼ばれる



池間島いまむかし



1963年
昔は入江だった！

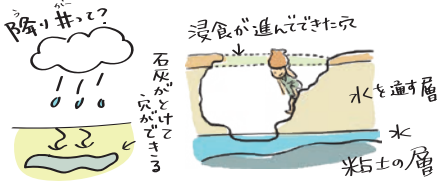
※国土地理院のウェブサイトの写真を加工して作成

1961年
港付近を堰き止め始めた頃のようす

宮古島市総合博物館所蔵

2023年

淡水植物に会いにいこう！



珊瑚礁が盛り上がってできた宮古島の地層は、水を通しにくい粘土の層の上に、水を通しやすい石灰岩が重なってできています。地表に降った雨のほとんどは石灰岩の隙間にしみこみ、やがて海岸の崖下などから海に湧き出ていきます。こうした湧水の周辺では、淡水を好む貴重な植物を見ることができます。湧水以外にも、降り井や洞泉など、島のあちこちに隠れている淡水の環境を探して、ぜひ淡水植物に会いに行ってみてください。

環境を変えてしまう外来種

生物は自然環境で密接に関係し合いながら生きており、各地域で独自の生態系を作り上げています。在来種は生態系をつくる要素のひとつで、他地域から外来種が入ってしまうと、環境を奪われて数が減ってしまったり、外来種との雑種が生まれて多様性が失われてしまったりと、もとの自然環境が大きく変わってしまうことがあります。

このように地域の自然環境に大きな影響を与え、生物の多様性を脅かすおそれのある外来種を「侵略的外来種」といいます。2005(平成17)年に施行された外来生物法では、生態系や人の命や身体、農水産業に被害を及ぼすおそれのある海外からの外来種を「特定外来生物」と指定し、栽培や移動、野外へ放つことなどを規制しています。

外来種は海外からだけとは限りません。国内でも他の地域から持ち込んだ動植物が環境に大きな影響を与えることがあるため、もとの生息・生育域以外に生物を移動させることがないよう注意が必要です。

特定外来生物

※特定外来生物はその場の移動を禁じられているため、見つけた場合は触らず、環境保全課自然環境係へ。

世界の侵略的外来種ワースト100！

ボタンウキクサ

浮遊性の常緑多年草。南アフリカ原産。繁茂すると水面を覆いつくし、湖や沼、河川の水温低下や、水質悪化の原因となる。

ツルヒヨドリ

つる性多年生草本。小さな白い花が咲く。日当たりの良い場所で勢いよく繁茂し、１日で10センチ以上伸びることもあり、英名で「Mile-a-minute(１分に１マイル)」ともいう。

要注意外来生物

外来生物法に基づく規制はないが、生態系に悪影響を及ぼすであろう種のことをいう。

ホテイアオイ

浮遊性多年生草本。繁茂して水面を覆いつくす。

アメリカハマグルマ

半つる性多年草。地面を覆いつくす、駆除が困難な厄介もの。

よく似た葉をもつ在来植物

引用：環境省那覇自然環境事務所

よく似た葉を持つが、葉脈の入り方が見分けのポイント。

ツルヒヨドリ　ツルドクダミ　クロミノオキナワスズメウリ

よく似た花をもつが、葉の形がそれぞれ違う。

ハマグルマ　アメリカハマグルマ　クマノギク　キダチハマグルマ　オオハマグルマ

大野山林散策コース(森林)

距離:約1.2km 所要時間:徒歩約20分

森林の環境

琉球石灰岩におおわれた宮古は、土の厚さや湿度、地形によって植生のちがいが見られます。土が厚く栄養が豊かで、湿度が高い低地やくぼ地には、タブノキ群落が発達し、土が薄く風が強くて乾燥している場所には、ヤブニッケイ群落などが発達しています。

宮古の森林率は約16%と少なく、その中でも大野山林は、宮古では最大規模の210ヘクタールの広さがあります。宮古で最も大きな水源である白川田水源の上にあり、水資源を育み守るための保安林として指定されています。また、希少植物の保全地としても貴重な存在となっており、散策コースも作られ、人々の森林体験の場としても利用されています。

一方で、造林のための下草刈りや遊歩道の増加により、開けた空間に外来種が入り込み、在来種への影響が心配される現状もあります。

リュウキュウマツ

常緑高木。琉球列島の固有種。琉球王府時代に大規模な植林がされた。落ちた葉や枝は薪に、松脂は灯りに、木部は浜に埋めたり潮水につけたりした後に家屋の床材に使用した。エサ箱や挽き臼にも使われた。

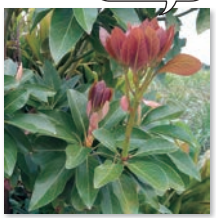
森林の環境で見られる植物

ヌーマピンガスキ

ヤブニッケイ

常緑高木。枝葉は薪にした。祭祀にも使われ、葉を擦り合わせて音を出しながら踊る。

コーギー



タブノキ

常緑高木。赤い新芽が目立つ。樹皮から線香を作ったので「香木」。汁を漆喰にまぜて建材にも使った。

バクチノキ

常緑高木。樹皮がはがれ黄赤色の木肌が見えるのを、博打に負けて丸裸になる様子に例えてついた名。

サキシマフヨウ

半常緑低木。林縁によく見られる。晩秋に咲く一重の大きな花が目立つ。落葉せず樹高も大きい。

アコーギー

アコウ

常緑高木。ガジュマルとよく似る。根が他の樹木に巻きついて枯らすこともある。果実が枝に直接実る。

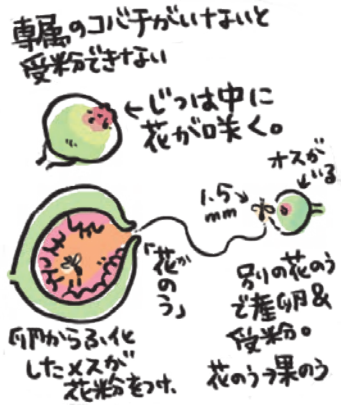
ムーターギー

イヌビワ

落葉低木。黒くなった果実は食べられるが虫もよくいる。枝葉は家畜のエサにしていた。

実を割ってみよう！

実の中に花がある。こういう形の実はそれぞれに専属のコバチがいる。



ミズバーギー

ショウベンノキ

常緑小高木。枝を切ると小便のように樹液がしたたり出るのが名の由来。花は５ミリ程で目立たない。

フフボーギー

リュウキュウガキ

常緑小高木。果実は有毒。魚を麻痺させて捕るのに使った。枝は祭祀のときに杖にする。

トゥビャーラギー

オキナワトベラ

常緑低木。葉も花も匂う。主にヤギのエサとして使用。薪にもした。

アカツギー

アカギ

常緑高木。巨木になる。樹液が血のように赤いから「赤血木」と呼ばれる。家畜のエサ箱の材料。

トゥスピャギー

コンロンカ

常緑つる性木本。花は小さな黄色い星形。がくの１枚が白く大きくなり、花びらのように見える。緑の中で白が目立つ。

シマヤマヒハツ

常緑低木。果実は緑から赤、紫、黒と変わり、熟すと食べられる。酸味が強く果実酒などに利用される。薪取りのときのおやつだった。

ツバサグース

ヒハツモドキ

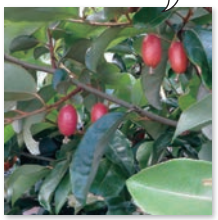
常緑つる性木本。果実は乾燥させて粉にし香辛料として使用。若葉は炒め物にしたり、天ぷらにできる。

バンキギー

ヤマグワ

半落葉小高木。若葉はヤギ汁や豚汁など、肉料理に入れた。果実はそのまま食べられる。

ザヴカニ



ツルグミ

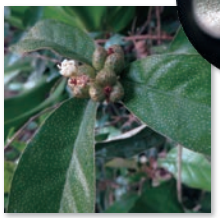
常緑つる性木本。トゲのある枝で他の木に絡んで登る。果実はややえぐみもあるが、食べる。

マルバグミ

常緑低木。果実は食べられる。葉が大きいためオオバグミともいう。

リュウキュウツルグミ

常緑半つる性木本。葉の縁が波うっていて、裏側は銀白色。果実は食べられる。



グミモドキ

常緑低木。グミ類によく似る。祭祀のときに使う。

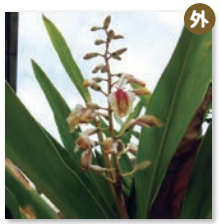
葉を観察してみよう！

うろこ状の毛がたくさん生えている。

サニム

ゲットウ(月桃)

常緑多年生草本。茎を乾燥させて縄を作った。独特の香りが虫よけや殺菌、薬草としても使われる。



クマタケラン

常緑多年生草本。台湾原産。ゲットウとアオノクマタケランの雑種とされる。

アオノクマタケラン

常緑多年生草本。在来種。ゲットウに比べ小型で花茎が直立する。

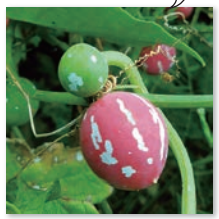
リュウキュウツチトリモチ

宮古島市保全種

多年生草本。クロヨナ、オオバギなどの根に寄生する。雄花はネックレスのように雌花を囲む。

リュウキュウボタンヅルより花の数が多い

ガラサヌチビ ヌグーフゥサ



オキナワスズメウリ

つる性１年草。果実は有毒。スイカのようなしま模様が珍しいため、観賞用として売られている。

アマチャヅル

つる性多年草。５つの葉が特徴的。葉は噛むと甘味がある。お茶にして飲んだ。

スバガマギー

リュウキュウボタンヅル

常緑つる性木本。祭祀に利用。火傷や傷薬として利用。刈り取っておいて正月に家畜のエサにした。

タズナイ

サキシマボタンヅル

半常緑つる性木本。祭祀に使う。これも刈り取っておいて正月に家畜のエサにした。

ホウビカンジュ

常緑多年生シダ。木の幹や岩上に生え、葉は垂れ下がる。最近は新芽を食用にする。

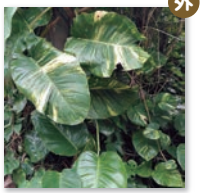
ナガニウサ

ハブカズラ

常緑つる性木本。在来種。木や岩壁にのぼる太い茎がハブのように見える様子から名がつく。葉に切れ込みが入る。

モンステラ

半つる性多年草。観葉植物。ハブカズラに似るが、葉に穴があく。



オウゴンカズラ
(ポトス)

常緑つる性木本。観葉植物が野生化して大型化。白い模様が入った、ハート形の大きな葉をつける。

シラタマカズラ

常緑つる性木本。気根を出して木の幹や岩によじ登る。マツ林でよく見られ、真っ白な花や果実が目立つ。

ウプムスキー

テリハノブドウ

半落葉つる性木本。葉の光沢が強く果実は熟すと青色になる。葉を家畜のエサにしたりした。

スマク

ハカマカズラ

常緑つる性木本。葉がハカマに似ていることから名前がついた。

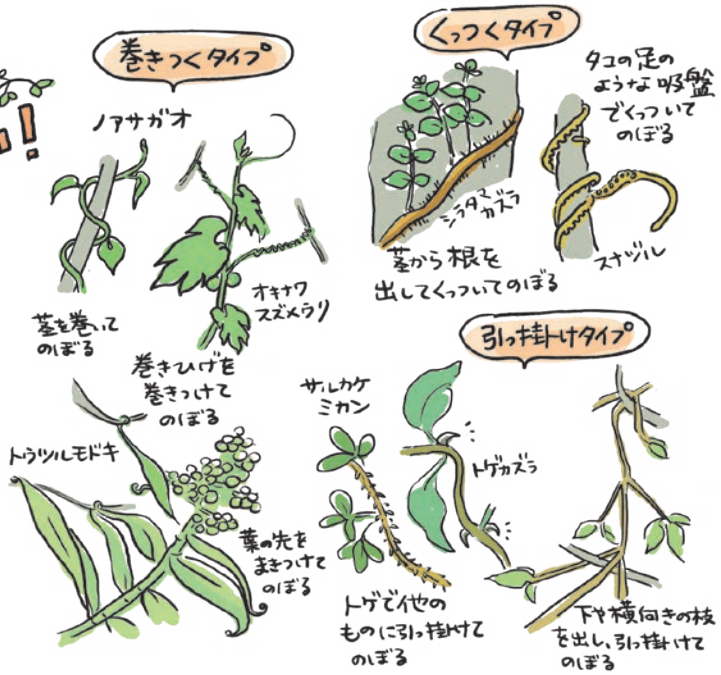
ピーピスカッツァ

ヘクソカズラ

つる性多年草。葉をもむと悪臭がする。若葉を汁物に入れた。薬用としても使われた。

つる植物はおもしろい！

つる植物は、他の植物などに絡んで高いところまで上り、光を効率よく得ています。その上り方は実に様々です。



菌類 食べられる

マツミム

全体が淡いオレンジ色。雨にあたったり傷つくと青緑色に変色することもある。

アカハツ

宮古ではリュウキュウマツのみが唯一の共生相手。

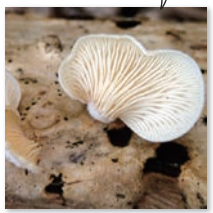
ボウズミム

坊主の頭のような形をしている。カサの上面は強い粘り気がある。

チチアワタケ

宮古諸島で昔から食用にされてきた。

アダンギーヌミム



枯れたアダンから生える。白く扇型で、柄はない。

トキイロヒラタケ

島に降った雨のほとんどは地下に浸透するため、湧水地でしかみられない。

淡水藻類

ミヤコチスジノリ

2002(平成14)年に、日本の固有種で国の天然記念物シマチスジノリの変種とわかった。城辺のヌグスクガーでのみ生育が確認されている。

木が茂って光合成ができなかったり、地下水が汚染されたりすると消滅するおそれもある。

コケ類

ミヤコジマネジクチゴケ

2014(平成26)年に宮古島で発見された新種。日本国内では初確認。乾くと葉がちぢれる。

コケ類は環境に敏感なので、コケ類の種類で環境の状態を知ることができる。

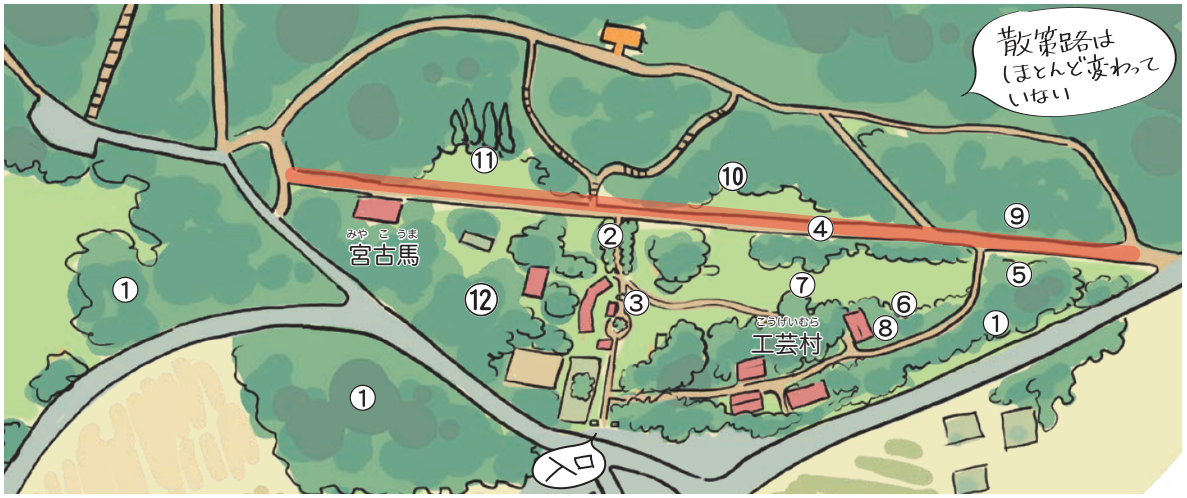
県内最大の熱帯植物園

宮古島市熱帯植物園は、戦前までリュウキュウマツの林地で、琉球王府の時代から木材を切り出す山として管理されていました。しかし、廃藩置県後、管理する者がいなくなり、戦争中にリュウキュウマツが乱伐され、戦後はハゲ山同然に荒れた不良林地となってしまいました。

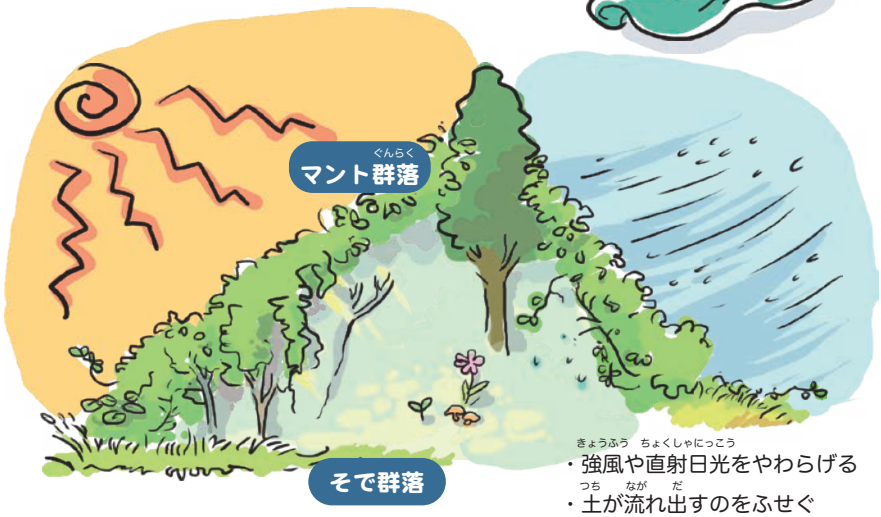
その後、1964(昭和39)年からナビフタヤマを中心とした12万平方メートルの林地を、自然教育や市民の憩いの場として造園が進められました。こうして1967(昭和42)年、平良市熱帯植物園が誕生しました。その後、2005(平成17)年に宮古島市熱帯植物園と改称し、2009(平成21)年に体験工芸村が開設されました。

いまの植物園

①マツ林
②フクギ並木
③イスノキ
④デイゴ並木
⑤ソテツ
⑥コバノナンヨウスギ
⑦パンノキ
⑧イジュ
⑨カンヒザクラ
⑩オオギバショウ
⑪シマナンヨウスギ
⑫ヤエヤマヤシ



森をまもる、「そで」と「マント」



・強風や直射日光をやわらげる
・土が流れ出すのをふせぐ

山林を観察すると、山林と道の間には草や低木が生えています。これらの植物は林内へ侵入することもなく、また離れもせず、一定の位置関係を保っています。このような植物は、山林の土砂が流れ出るのを防ぐ大切な役目をしており、「そで群落」と呼ばれています。

また、山林の外側は低木やつる植物が茂っており、マントを羽織っているように見えることから、それらの植物群を「マント群落」と呼んでいます。人間がマントを着て寒さから身を守るように、山林の中に直接風が吹き込んだり、日光が直射して乾燥するのを防いでいます。

一見荒れた印象を与えるため、森の邪魔者と思われて刈り払われたり、工事などで山林の周辺をえぐり取ったりすることがありますが、その結果、山林内の環境が変わり、山林が後退して荒れていくことになるため、むやみに刈り払わないよう注意が必要です。

厳しく管理された杣山

杣山：琉球王府の山奉行が監督し、間切・村(島)が管理する山

宮古の南北方向には数少ない山林のラインがいく筋かのびています。山林は昔から生活に必要な木材や薪、食べ物を調達する場であり、限られた資源のため、琉球王府から厳しく管理されていました。

詳細なマニュアルや厳重なルールを定めた造林も盛んに行われ、1700～1800年代にかけて、マツなどの建築資材のほか、農作物の塩害対策のためのアダン、凶作時の食用としてのソテツなどが植えられました。

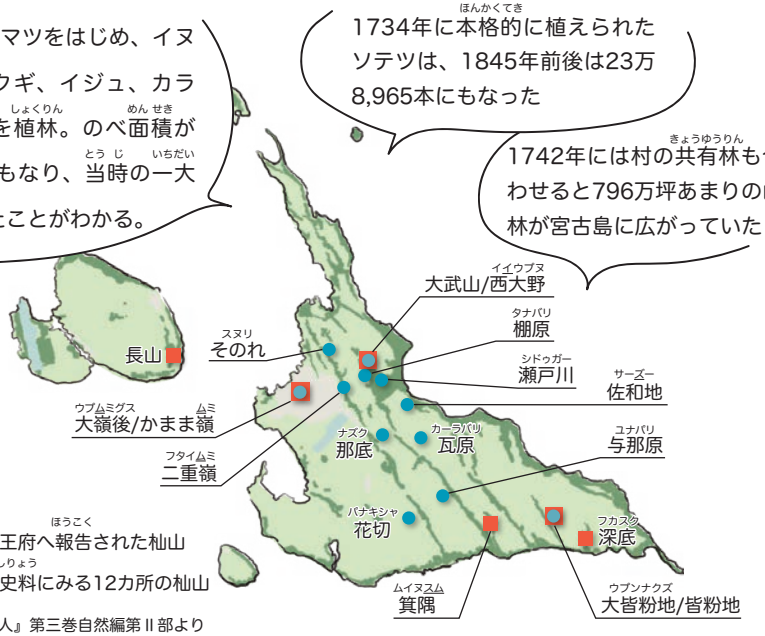
1879年の廃藩置県後、管理の手が離れた杣山は、盗伐乱伐の対象となり、急速に衰退していきました。

現在では牧山と大野山林でその一部を見ることができますが、開発による伐採は続いています。50年、100年先も緑豊かな宮古の環境を残していくために、これらの山林を守っていくことも重要な課題となっています。

1742年にマツをはじめ、イヌマキ、フクギ、イジュ、カラタケなどを植林。のべ面積が72万坪にもなり、当時の一大事業だったことがわかる。

1734年に本格的に植えられたソテツは、1845年前後は23万8,965本にもなった

1742年には村の共有林も合わせると796万坪あまりの山林が宮古島に広がっていた



『宮古の自然と人』第三巻自然編第Ⅱ部より

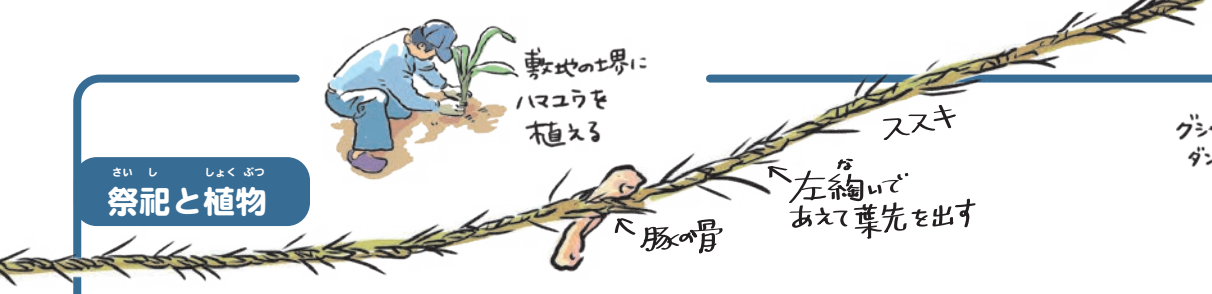
牧山散策コース(森林・御嶽林)

牧山公園は伊良部島の東側の断崖上に位置し、サシバの形をした展望台からは、宮古島と池間島、来間島、各島をつなぐ3つの大橋を一望できます。宮古諸島の形や位置関係がよくわかり、植物の環境が観察できる場所でもあります。

御嶽林

御嶽は、集落の人にとって大事な祈りの場で、むやみに立ち入ることや許可なく伐採することが禁じられています。その結果、自然林に近い植生が残されています。

祭祀と植物



宮古では昔から各集落ごとに祭祀が行われてきました。多い地域では年間に50を超える祭祀が行われ、五穀豊穣、無病息災、航海安全など、暮らしと深く結びついています。そういった祭祀にも植物が使われており、各集落ごとに少しずつ違いがあります。

スマフサリ、スマッサリ

集落から厄を祓う行事のこと。集落の各方位の出入口にススキなどで編んだ綱に豚の骨をぶら下げ、結界のように張る。

マータ

３本のススキを三又に束ね、種まきの終わった畑の中央に立てて豊作を祈る。

バラザン、サン(藁算)

藁算は、稲藁やイグサなどを結んで、数の記録や計算機として使った沖縄独自の民具。宮古ではススキを使った。農民や庶民を中心に県内各地で使われていた。現在は宮古や八重山、一部の沖縄島で稀に祭祀に使われる。

グシャン
杖

リュウキュウガキ・クロツグ・ダンチクなど

腰帯

トウツルモドキ・クロツグ・ススキ・サキシマボタンヅルなど

くさかんむり
草冠

シイノキカズラ(キャーン)・カラスキバサンキライ・グンバイヒルガオ・クロツグ・サキシマボタンヅル・リュウキュウボタンヅルなど

ティ ウサ
手草

ヤブニッケイ・グミモドキ・ダンチク・シマヤマヒハツ・クバの葉など

祭祀に使われる植物

クバ

ビロウ

常緑高木。御嶽に植えられている。祭祀で腰にまく。葉で扇子や蓑、クバ笠、釣瓶、縄などを作った。花の茎は子どものおやつ。

マーニ

クロツグ

常緑低木。祭祀のときに葉を編んで頭や腰に巻く。細く鋭い葉が魔除けの意味を持つ。根本の黒い繊維は縄やカゴに利用された。

ビヴガッサ

クワズイモ

常緑多年草。葉に供物をのせたり、供物を包む。汁は触るとかぶれるが、止血剤や破傷風の予防薬にされた。

ダティフ

ダンチク

多年生草本。秋に直立し高い穂を伸ばす。茎は中空で節がある。魔除けや、津波避けの祭祀ナーパイでも使われる。茅葺屋根の建材。

オキナワソケイ

常緑つる性木本。花期は夏から秋にかけて強い香りの白い花を咲かせる。祭祀のときに草冠にする。

キャーム

シイノキカズラ

常緑つる性木本。祭祀のときに頭や腰、体全体に巻くのに使われる。カゴなども作った。

カラスキバ
サンキライ

常緑つる性木本。農具の唐鋤に葉が似ていることから名がつく。祭祀のときに草冠にする。

クーズ

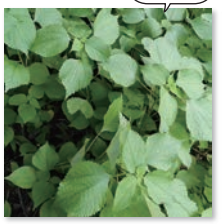
トウツルモドキ

常緑つる性木本。ササやタケに似ている。つるでカゴや鍋蓋を作った。祭祀のときに草冠にする。

ブーとブーギ

宮古といえば宮古上布が有名です。1583年に稲石が琉球王府に献上したのが始まりとされ、260年にもおよぶ人頭税の時代は、上布を税として納めていました。糸の材料となる苧麻の栽培をはじめ、織物まで仕上げる全ての工程がひとつの島で完結しています。

ブー



カラムシ(苧麻)

多年生草本。皮を剥いで繊維をとった。家の敷地内で栽培したり、周辺に生えているものを採って使った。

刈り取り

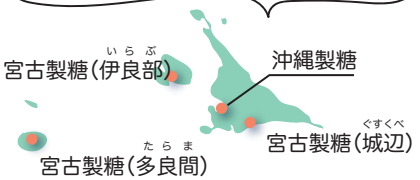
繊維を取り出し

糸にしていく

1881(明治14)年に宮古で初めてサトウキビが植え付けられ、1883年には黒糖が製造されました。人頭税が廃止されて自由に商売ができるようになった1903年以降、サトウキビの生産は増え、いまでは沖縄県の総生産量の40％をしめ、島の基幹産業となっています。

イネ科の多年草。長さ6ｍ以上にもなる。茎の節から芽が出る。11月頃に穂が出ると糖度があがり、12～4月にかけて収穫・製糖される。

宮古諸島は４つも製糖工場がある！



宮古の固有種、希少種

『宮古島市史第三巻 自然編 第一部 みやこの自然別冊(2020)』によると、宮古諸島の在来種は680種とされています。2012～2017年にかけての調査・報告では、宮古諸島の絶滅を危惧される維管束植物89種のうち、３種は絶滅し、約４割は確認ができませんでした。現在、宮古諸島だけに生育する固有植物は、ミヤココケリンドウの１種のみです。また、国内で宮古諸島だけにみられる植物は７種、宮古諸島を北限とする種は42種が確認されています。

宮古諸島でしか見られない植物（固有種）

ミヤココケリンドウ

沖縄県RDB：絶滅危惧IA類
環境省RL：絶滅危惧IA類

分布：宮古島、下地島

２年生草本。海水飛沫を浴びるような低い岩礁地に生え、草丈は３～５センチほど。個体数は少なく、宮古島と下地島の数か所のみで確認されている。ゴルフ場やホテルの建設など、海岸の開発が進んでおり、生育可能環境が減少しつつある。

国内では宮古諸島だけに見られる植物

沖縄県RDB：絶滅危惧IB類
環境省RL：絶滅危惧IA類
宮古島保全種

サキシマエノキ

分布：宮古島、伊良部島
国外分布：セレベス、ニューギア

落葉小高木。宮古島と伊良部島の４か所のみで生育を確認。宮古島の個体がコバノチョウセンエノキの変種として選定基準標本となった。

沖縄県RDB：絶滅危惧IA類
環境省RL：絶滅危惧IA類
宮古島市指定天然記念物

分布：宮古島、伊良部島、多良間島
国外分布：台湾

イラブナスビ

常緑小低木。海岸の岩場に這うようにして生える。伊良部島の２か所でごく少数確認。宮古諸島が基準産地であり、分布の北限。

沖縄県RDB：基本種・固有変種とも絶滅危惧Ⅱ類
環境省RL：該当なし

分布：伊良部島、多良間島
国外分布：台湾、フィリピン、中国

ケナシハテルマカズラ

常緑つる性多年草。ハテルマカズラの変種。植物体に毛がない。伊良部島では近年確認できず多良間島の数か所のみ。

沖縄県RDB：絶滅危惧IA類
環境省RL：絶滅危惧IA類

分布：宮古島、伊良部島
国外分布：台湾

タイワンチトセカズラ

常緑つる性木本。宮古島２か所、伊良部島１か所で自生、個体数は少ない。公園管理の影響で個体数が減少。

沖縄県RDB：絶滅危惧IA類
環境省RL：該当なし

分布：宮古島（日本新記録種）分布の北限
国外分布：台湾、フィリピン、中国

ミツバウコギ

常緑半つる性木本。長さ数mにもなる。枝と葉柄に逆さにトゲがある。確認されている自生地は宮古島で２か所、個体数は少数。

沖縄県RDB：絶滅危惧IA類
環境省RL：絶滅危惧IA類

分布：宮古島、大神島
国外分布：台湾

ミヤコジマソウ

常緑ほふく性多年草。岩上や海岸林に生育する。自生地は宮古島と大神島の数か所。ポリネシア系の植物で、植物地理学上貴重。

絶滅危惧種

沖縄県RDB：絶滅危惧IA類
環境省RL：絶滅危惧IA類
国内希少野生動植物
宮古島市保全種

ホソバフジボグサ

常緑亜低木。2011年に宮古島で約30年ぶりに生育が確認された。宮古島で自生するのは１個体のみ。

沖縄県RDB：絶滅危惧Ⅱ類
環境省RL：絶滅危惧IA類

リュウキュウチシャノキ

常緑高木。西平安名崎付近に１個体のみ生育が確認。この種の北限が書き換えられた。

沖縄県RDB：絶滅危惧IA類
環境省RL：絶滅危惧IA類

トゲイボタ

常緑ほふく性低木。沖縄県固有種で自生地と個体数が少ない。宮古は伊良部島でごく少数の個体が確認された。

沖縄県RDB：絶滅危惧IB類
環境省RL：絶滅危惧IA類
宮古島市保全種

エノキフジ

常緑小高木。林縁に生える。宮古島平良の２か所で少数個体が確認された。

宮古諸島を北限とする種

インド ヒモカズラ

沖縄県RDB：絶滅危惧ⅠB類
環境省RL：絶滅危惧ⅠA類

コウシュン ウマノスズクサ

沖縄県RDB：絶滅危惧Ⅱ類
環境省RL：絶滅危惧Ⅱ類

オオバ ハマアサガオ

沖縄県RDB：絶滅危惧Ⅱ類

イシガキ カラスウリ

縄県RDB：準絶滅危惧
環境省RL：絶滅危惧ⅠA類

シマソケイ

沖縄県RDB：絶滅危惧ⅠB類
環境省RL：絶滅危惧ⅠA類

スナハマスゲ

沖縄県RDB：絶滅危惧Ⅱ類
環境省RL：該当なし

リュウキュウ コマツナギ

リュウキュウ ガシワ

ハテルマギリ

シロツブ

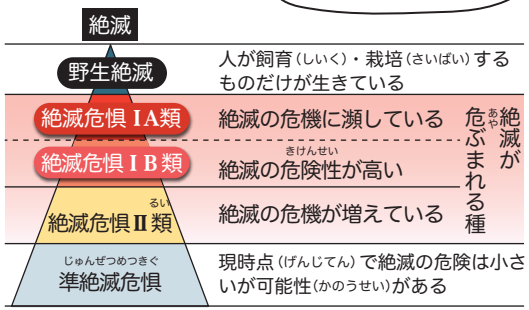
沖縄県ＲＤＢ？？
環境省ＲＬ？？

レッドリストとは、絶滅のおそれのある野生生物の種のリストで、国際的には国際自然保護連合が作成しており、国内では環境省のほか、地方自治体やNGOなどが作成しています。

リストの見方(例)

沖縄県RDB：絶滅危惧Ⅱ類
環境省RL：絶滅危惧IA類

沖縄県ではまだ絶滅危惧ではないけれど、日本国内では絶滅の危機に瀕している種



“ミヤコ”とつく植物

宮古諸島でしか見られない植物（固有種）

ミヤコ コケリンドウ

国内では宮古諸島だけに見られる植物

ミヤコジマソウ

宮古諸島を北限とする種。先島諸島固有種

ミヤコジマ ツルマメ

沖縄県RDB：該当なし
環境省RD：絶滅危惧Ⅱ類

宮古島市指定天然記念物。宮古島市保全種

ミヤコジマ ハナワラビ

ミヤコジマ ハマアカザ

ミヤコジマ ツヅラフジ

ミヤコ ハママンネングサ

帰

ミヤコジマ ニシキソウ

ミヤコジシバリ

ハマニガナとオオジシバリの雑種

海岸に生えるハマニガナ

畑など内陸に生えるオオジシバリ

ミヤコグサ

シロバナミヤコグサ

このミヤコは“都”なので宮古とは関係ない。

人里、耕作地、草地の植物

屋敷林として

プクイギー

フクギ

常緑高木。成長が遅いが材質が硬く葉が密になるため、屋敷林として植えられる。潮にも強いため家の柱などに使われた。樹皮は染料になる。

フフゥキ

リュウキュウコクタン

常緑小高木。樹皮が黒く材質が緻密なことから最高級の三線の棹や、建材に使われる。庭木としても利用される。

キャーギギー

イヌマキ

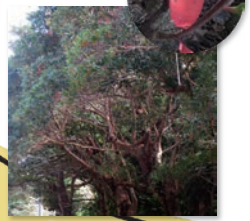
常緑高木。沖縄に自生し、病害虫に強く建材として重宝。水に強いため、屋外の柱などにも利用された。果実の赤い部分は食べられる。

公園や街路樹、防風林として

ヤラヴギー

テリハボク

常緑高木。馬小屋や畑小屋の建材、農機具や豆うち棒など幅広く使われた。果実は乾燥させると長時間燃えるので、ランプ代わりにした。



ホルトノキ

常緑高木。古い葉は赤く紅葉するので、一年を通して緑の中に赤がちらほら混じって見られる。

人里、耕作地、草地の環境

宮古の島々は大部分を耕作地が占めています。開けた環境は森林の中と異なり、日当たりがよく、光合成がしやすい一方、強い日差しと風が通る比較的乾燥した環境でもあります。また、根や茎を伸ばして葉を広げても、踏まれたり刈り取られたり引っこ抜かれたりと、植物にとっては育つのが難しい場所です。そういった難しい環境にうまく適応する植物は、一番最初に生えることから先駆植物と言われ、成長が早く、根や種さえ残っていれば芽が出てきます。人里や耕作地などの植物は、防風林や観賞用、栽培などで植栽される植物も多くあり、人によって持ち込まれた外来種がよく見られます。

開けた土地に生える草木

ヤツヴサ

ヨモギ

多年生草本。山羊汁などの臭い消し、お茶や刺身のつま、もち、天ぷらにして食べる。お灸や熱冷まし、鎮痛剤、血圧降下剤としても使用。

ムトゥビ

ナワシロイチゴ

常緑ほふく性低木。野生のキイチゴのひとつ。美味しいので昔から食べられていた。味は酸味が強め。

リュウキュウコスミレ

多年生草本。花の色が淡い紫〜濃い紫と変化が大きい。白い花が咲く個体はシロバナリュウキュウコスミレと呼ばれる。

ウプバーギー

オオバギ

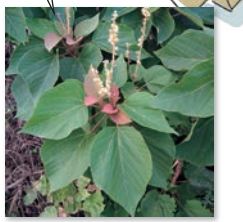
常緑小高木。開けた土地に育ち、大きな丸い葉はおにぎりを包んだり、皿代わり、トイレットペーパー代わりにした。家畜のエサ。

ミーツムヌギー

ヤンバル アカメガシワ

落葉小高木。葉裏の粉が目に入るから「ミーツムヌギー(ゴミが目を刺す木)」。家畜のエサ。

葉の形で見分ける



アカメガシワ

半落葉小高木。新芽が赤いことが名の由来。日当たりのよい林縁に生える。ヤンバルアカメガシワと用途が似る。

サフナ

ボタンボウフウ

多年生草本。長命草とも呼ばれる。魔除けとして利用。防腐剤代わりに食べ物の上に添えたりもする。胃腸薬として使われる。

ムニンキケマン

２年生草本。人家の脇や草地に生え軟質で水っぽい。独特な臭いの葉は風邪薬や熱さましとして利用された。

シマキケマン

２年生草本。ムニンキケマンより花の色が薄く、全体的に小ぶり。

方言がたくさんある

ムニンキケマン

35種類の方言があり、どれもとても長い！

犬のおしっこにおいのする草(かりまた)
・インヌユシバイムフサ(狩俣)
やりくりじょうずな人(みやぐに)
・クーシャガマ(宮国)
鳥のとさかに似た木(さわだながはま)
・トゥリガマギー(佐和田長浜)
馬のおしっこにおいのする草(さらはま)
・ヌーマヌスバイウサ(佐良浜)
魔物(おばけ)の草(ぼら)
・マズムヌダフッナ(保良)
おばあのおしっこのにおいのする草(しんざと)
・ムマガユッパイフッサリフッサ(新里)
八重山(石垣)のおばあのしっこのにおいのする草(にしなか)
・ヤーマガムマガユスパイフッサ(西中)
八重山のおじいの
・ヤーマヌウプウヤカ
おしっこのにおいのする草(おおがみ)
ユッパイフファリフファ(大神)

とにかく臭かったのね…笑

14文字!

20文字!!

方言名が多いことそれだけ人々に利用されてきた

常緑低木。形や色が多様な葉が特徴。ヒヌカンや仏壇に供えたりするため、家の敷地に植栽される。

クロトン

ウスガマギー

ヒマ

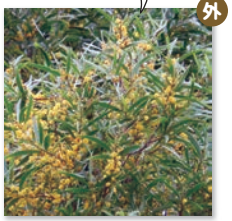
１年生草本。トゲのある果実が特徴。種子は有毒だがヒマシ油がとれる。種子を葉の上で転がして遊んだ。

モクモー

モクマオウ

常緑高木。主に燃料として使用。薪はマツよりも高価だった。なまり節を作るときにも使用する。

ショージギー



ソウシジュ

常緑高木。初夏に黄色い花が球状に咲く。葉は退化し、葉柄が平たくなって葉のように見える。畑の防風林や緑肥として植えられる。

ニーニヴギー

ギンネム

常緑小高木。戦後、米軍が焼け野原に飛行機で種をまいた。家畜は食べるが、鮮度が悪いと毛が抜けるのであまり使用しない。

オウギバショウ

常緑高木。葉の間にたまった水を旅人が飲んだと言われ、旅人の木とも呼ばれる。種が鮮やかな青い繊維で包まれている。

ムツヴサ

シロノセンダングサ

１年生草本。若葉は和え物、汁物に入れて食べた。痛風に効く薬としても使った。お茶としても利用される。

歌や民話と植物

『平安名のマムヤ』

昔平安名というところにニフゥニイの香りのする、マムヤという絶世の美女がいました。その噂を聞きつけて会いに来た野城按司と恋に落ちますが、按司にはすでに妻子がいました。最初は妻子と別れると言っていたのに、結局は「いい香りのするお前より、子どものうんちやおしっこの臭いのする妻のほうがよい」と言い放ちました。絶望したマムリャは平安名崎の崖の上から身を投げてしまいました。娘を心配した母がいくら探しても見つけられず、ただ崖に着物がはためくだけでした。

参考：城辺町史第六巻歌謡編 / 歌 上田長福(2000)

ニフゥニイ

モロコシソウ

多年生草本。石灰岩地や林内に生える。蒸すと独特の甘い香りを発し、防虫剤や香りづけに使われた。

『マータの由来』

昔、みすぼらしい姿の片足が不自由な老人が、お金持ちの家をたずね、一晩泊めて欲しいと言うと、「乞食を泊めるわけにいかない」と断られました。しかたなく隣の貧乏な家を尋ねると、「こんな粗末な家でよければ」と快く迎え入れてくれました。実は神様のお使いであった老人は、お礼にと「あなたが畑に作物を植えたあとに、マータを結っておきなさい」と教えました。貧しい家の主人が言われた通りにすると、毎年神様がその畑にユー(豊作)を与えるようになりました。それからというもの、村人たちもマータを結うようになりました。

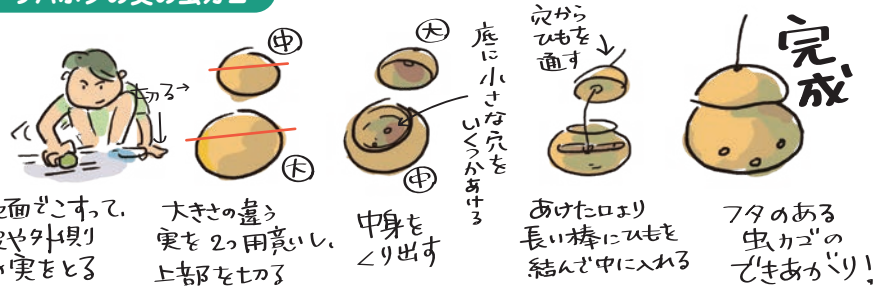
参考：城辺町史第五巻民話編 / 語り砂川恵辰(1990)

遊びと植物

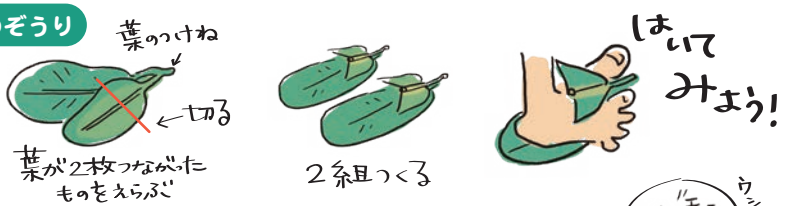
あそんでみよう！

ハイビスカスであそぼう！

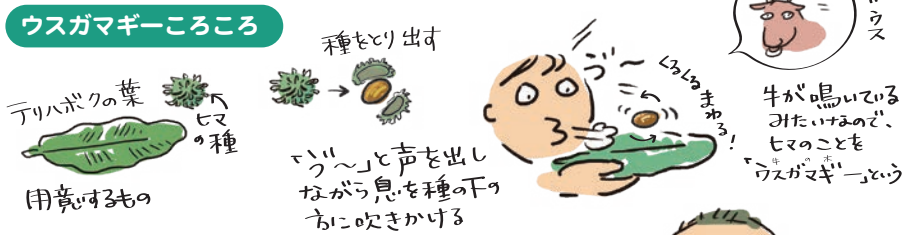
テリハボクの実の虫カゴ



フクギのぞうり



ウスガマギーころころ



アリマウマノスズクサで…

文化財の体系図

文化財の種類
- 特に価値の高いもの
- 特に重要なもの
- 重要なもの
- 特に必要のあるもの
- 保存と活用が特に必要なもの
- 保存できるよう考える必要のあるもの

文化財

有形文化財
- 指定 → 重要文化財 → 指定 → 国宝（世界から見ても価値が高い、国の宝）
- 登録 → 登録有形文化財

建造物
美術工芸品 工芸品、絵画、彫刻、書跡、典籍、古文書、考古資料、歴史資料など、形のあるもの

無形文化財
- 指定 → 重要無形文化財
- 登録 → 登録有形文化財
- 選択 → 記録や作成などを考える必要のある無形文化財

演劇、音楽、工芸技術などの、形のない、人間の「わざ」そのもの

民俗文化財
- 指定 → 重要有形民俗文化財
- 指定 → 重要無形民俗文化財
- 登録 → 登録有形民俗文化財
- 選択 → 記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財

有形民俗文化財 無形民俗文化財に使われる衣装、器具、家屋など
無形民俗文化財 衣食住、生業、信仰、年中行事などに関する風俗習慣、民俗芸能、民俗技術

記念物
- 指定 → 史跡 → 指定 → 特別史跡
- 指定 → 名勝 → 指定 → 特別名勝
- 指定 → 天然記念物 → 指定 → 特別天然記念物
- 登録 → 登録記念物

遺跡 貝塚、古墳、都城跡、城跡、旧宅など
名勝地 庭園、橋梁、渓谷、海浜、山岳など
動物、植物、地質鉱物

文化的景観
- 都道府県または市町村の申し出に基づいて選定 → 重要文化的景観

地域の人々の生活または生業及び地域の風土によって形成された景観地 棚田、里山、用水路など

伝統的建造物群
- 市町村が決定 → 伝統的建造物群保存地区
- 選定 → 重要伝統的建造物群保存地区

宿場町、城下町、農漁村など

文化財の保存技術
- 選定 → 選定保存技術

文化財ではないが、保護の対象となっているもの。文化財の保存に必要な材料や用具の生産制作、修理・修復の技術など

埋蔵文化財

土地に埋まっている文化財

2021 更新

それぞれの文化財の一例

※宮古島市や、沖縄県、九州にある文化財の一例

有形文化財（形のあるもの）
- 指定 → 重要文化財
  - 豊見親墓３基（とよみおやばか３き）
- 指定 → 国宝
  - 治金丸 / 沖縄県（じがねまる / おきなわけん）
- 登録 → 登録有形文化財
  - 旧西中共同製糖場煙突（きゅうにしなかきょうどうせいとうじょうえんとつ）

無形文化財（形のないもの）
- 指定 → 重要無形文化財
  - 宮古上布（みやこじょうふ）

民俗文化財（生活に関係したもの）
- 指定 → 重要有形民俗文化財
  - ウイピャームトゥの祭場（さいじょう）
- 指定 → 重要無形民俗文化財
  - 宮古島のパーントゥ
- 登録 → 登録有形民俗文化財
  - 竹富島の生活用具 842 点 / 沖縄県竹富島（たけとみじまのせいかつようぐ / たけとみじま）

記念物
- 指定 → 史跡（歴史上の名所）
  - 遠見番所（とおみばんしょ）
- 指定 → 特別史跡
  - 吉野ヶ里遺跡 / 佐賀県（よしのがりいせき / さがけん）
- 登録 → 登録記念物
  - 旧仲宗根氏庭園（きゅうなかそねし ていえん）
- 指定 → 名勝
  - 東平安名崎（ひがしへんなざき）
- 指定 → 特別名勝（景色のよいところ）
  - 識名園 / 沖縄県（しきなえん）
- 指定 → 天然記念物
  - オカヤドカリ
- 指定 → 特別天然記念物（貴重な自然を記念するもの）
  - イリオモテヤマネコ

文化的景観（人間と自然が作ってきた景色）
- 指定 → 重要文化的景観
  - 別府の湯けむり・温泉地 / 大分県（べっぷの ゆけむり おんせんち / おおいたけん）

伝統的建造物群（歴史的なまちなみや景色）
- 指定 → 伝統的建造物群保存地区
  - 竹富島の農村集落 / 沖縄県 竹富島（たけとみじまの のうそんしゅうらく）

選定保存技術（文化財の保存に大事な技術）
- 苧麻糸手績み（ちょまいとてうみ）

埋蔵文化財（埋まっているもの）
- 住屋遺跡（すみやいせき）

私たちの文化財です
大切にしましょう

文化財を許可なく無断で現状変更することは法律で禁止されています。

写真提供(敬称略)
藤田喜久(沖縄県立大学全学教育センター教授)ミヤコチスジノリ
保坂健太郎(国立科学博物館 植物研究部)トキイロヒラタケ/チチアワタケ
三輪大介(ヤラブの木 副代表)アダン_バスとツガキ
山口富美夫(広島大学大学院統合生命科学研究科)ミヤコジマネジクチゴケ
横田昌嗣(琉球大学名誉教授)イシガキカラスウリ/イラブナスビ/ケナシハテルマカズラ/コウシュンウマノスズクサ/サキシマエノキ/タイワンチトセカズラ/ホソバフジボグサ/ミツバコウギ/ミヤココケリンドウ/ミヤコジマソウ/ミヤコジマハナワラビ
佐藤宣子(宮古島市教育委員会文化財係)アダン_縄/エノキフジ/オオバハマアサガオ/オキナワソケイ/オキナワテイカカズラ/クロイゲ/ケミズキンバイ/サキヒマハマボウ/サキシマフヨウ/シマソケイ/シロツブ/シロバナミヤコグサ/スナハマスゲ/ソウシジュ/トゲイボタ/ハテルマギリ/ハマニガナ/ヒルギダマシ/マングローブ 水路 干潮時/マングローブ 風景 満潮時/ミヤコグサ/ミヤコジシバリ/ミヤコジマツヅラフジ/ミヤコジマツルマメ/ミヤコジマニシキソウ/ミヤコジマハマアカザ/ミヤコハママンネングサ/モロコシソウ/リュウキュウガシワ/リュウキュウコマツナギ/リュウキュウチシャノキ

宮古島アプリ あやつ 綾道

教育委員会
公認アプリ

このアプリケーションは、GPS機能を利用したコース案内が可能なほか、現地で文化財の説明などを閲覧することができます(ダウンロードをしておけば、ネット環境が不十分な場所でも文化財の閲覧が可能です)。

ポータルサイト

宮古島市neo歴史文化ロード　**綾道(自然・植物編)**

発行　2024(令和６)年３月
編集・発行　宮古島市教育委員会
〒906-8501沖縄県宮古島市平良字西里1140番地
TEL 0980-72-3764　FAX 0980-73-1976
イラスト・デザイン　山田　光
令和５年度宮古島市neo歴史文化ロード整備事業